

2021年
8月23日号

No.1624



週刊 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION <http://www.kyoiku-shiryu.co.jp>

潮流

夢ある人生と世の中を創造したい

NPO法人 夢検定協会代表理事 琵琶博之



資料

「早寝早起き朝ごはん」は自立した人間への第一歩

「早寝早起き朝ごはん」
全国協議会・田中壮一郎

CONTENTS

▶ 2 潮流

夢ある人生と世の中を創造したい
琵琶博之(NPO法人 夢検定協会代表理事)

▶ 5 解説・ニュースの焦点

○校長に求められるアセスメント能力、ファシリテーション能力

編集部

○事故が少ない学校は学期に1回以上、教委と打ち合わせ

編集部

▶ 8 校長講話

平和の祭典「五輪」開会式前日に
人権感覚が欠如した人物の解任劇

西林幸三郎(大阪聖徳学園理事・教育参与・教授)

▶ 10 管理職養成 教頭実務ガイダンス 仕事の流儀

井部良一(全国公立学校教頭会事務局長、元川崎市立富士見台小学校校長)

▶ 12 インクルーシブ社会の障がい学入門

【おもちゃ×障がい】

共に遊べないと楽しくない!

水内豊和(富山大学人間発達科学部准教授)

▶ 14 管理職必携 安心・安全の新常識

風評と安心のはざま①

生産者と消費者を対立させないために

小山良太(福島大学食農学類教授)

▶ 16 実践! 校長塾

生徒が通いたくなる学校づくり

笛木啓介(東京都大田区立大森第三中学校校長)

▶ 19 資料

「早寝早起き朝ごはん」は自立した人間への第一歩

「早寝早起き朝ごはん」全国協議会・田中壮一郎

▶ 35 教育の危機管理

中2生徒の水筒が同級生の目に当たり、視力低下の障害が残った事案

梅澤秀監(東京女子体育大学・短期大学特任教授)

▶ 38 事務新時代

事務職員の働き方を見直し、教育活動に貢献していくことはできるのか?①

ICT化の波と事務職員の未来を考える

仲程佳代子(沖縄県糸満市立三和中学校事務主査)

▶ 40 高校現場最前線

「あったらいいね」をカタチにする!

~コミュニティデザイナーの育成~①

上山康一郎(福井県立三国高等学校校長)

▶ 42 若手教師に伝えたい

「学級・授業づくり」とっておきのツボ
机間巡視のススメ2

依原正仁(兵庫県芦屋市立山手小学校校長)

▶ 44 変わる教育委員会

三島村は日本の保健室③

室之園晃徳(鹿児島県・三島村教育委員会教育長)

▶ 45 教育問題法律相談

祖父母などの第三者の監護者指定

澤田 稔(弁護士)

▶ 46 現場の課題に応える教育センター

「教育の情報化」とICT環境の整備に向けた取組

大石健一(奈良県立教育研究所所長)①

▶ 48 BOOK

『最新の脳研究でわかった! 自律する子の育て方』

『第四次産業革命と教育の未来 ポストコロナ時代のICT教育』

▶ 49 自著を語る

『コーピングのやさしい教科書』

伊藤絵美(洗足ストレスコーピング・サポートオフィス所長)

▶ 50 今さら聞けない!? マナーと常識

食事の作法と構造「寿司」・その②

柴崎直人(岐阜大学大学院教育学研究科准教授)

▶ 51 故きを温めて

年長者は「知」の劣化を自覚すべし

福本郁子(盛岡大学准教授)

▶ 52 マイオピニオン

大谷翔平、ベースボールを救う!

二宮清純(スポーツジャーナリスト)



潮流

NPO法人夢検定協会代表理事

琵琶博之さんに聞く

夢ある人生と 世の中を創造したい

自分の夢と向き合う機会をと
我が国初の「夢検」を創設した。
夢を自覚し、整理・修正しながら
その実現を目指す「夢活」を普及させる。

「コロナ禍だからこそ、夢を持ちたい」
—— NPO法人夢検定協会の設立理念や
背景を教えてください。

NPO法人夢検定協会は、夢の資格検定「夢検」を立ち上げて、全国に普及させていく活動を行う非営利の団体で、今年8月に設立しました。緊急事態のコロナ禍であるからこそ、緊急な取り組みが必要ではないかと考えました。この「夢検」で人々に夢ややりたいことを考えるきっかけを提供するとともに、誰もがワクワクできる社会の実現を目指したいという思いで設立しました。協会としては、たくさんの人たちと手を携えて、夢のある人生と世の中を創造し、社会貢献していきたいと思えます。

「夢検」という言葉は聞き慣れないと思います。これは、自分の夢と向き合う機会になればと考えています。私たちは、夢いっぱいの人はもちろん、夢がないという人の心のドアをノックして、心の奥にしまわれている夢を一つでも多く実現するために寄り添いたいと思っています。そして、同じ夢を持った人同士が協力できる機会も作りたいと思っています。夢というと、実現

が難しい大きなことというイメージを持つ人もいると思いますが、ささやかなことであっても、自分がやってみることに挑戦してみることが大切だと考えています。

——前職の議員時代の経験も背景になっていると聞きました。

現在は、通信制高校の教員をしながら、同志社大学の大学院のソーシャルイノベーション専攻の院生でもあるのですが、前職は、北海道の蘭越町議会の議員をしていました。人口が少なく、過疎化が進んでいた町ですが、議員時代にまちおこしとして、住民世帯の1%以上が本を出版する「らんこし作家デビュー・プロジェクト」に関わりました。この時にプロジェクトの審査委員長をしていただいていた小樽市出身の作家の千石涼太郎氏とのご縁で、夢検定協会の設立理念を監修していただき、応援のメッセージをいただきました。

議員時代に感じたことは、地域にはさまざまな課題があり、その解決のためには、課題解決に取り組む人を育てる環境やシステムが欠かせないということです。同志社大学の大学院には、こうした経験を踏まえて、社会的な課題を見つつけたり、解決した

りするための学問を体系的に研究したいという思いで、進学しました。ただ、世の中は、予想以上にコロナ禍で大変な状況になってきたため、自分自身がイノベーターとして、何かのアクションを起こさないといけないと考えて、夢検定協会を立ち上げることにしました。

夢〓やりたいこと

——夢というと、人によっていろいろなイメージを持つと思います。

先ほども述べましたように、私たちは、夢というものを、「自分がやりたいこと」とまずは定義しています。ですから、夢は小さいことであってもいいですし、多い方がいいと考えます。例えば、自分が飼っている犬とドッグカフェに行ってみるとか、コンビニの新商品のスイーツを食べてみる、などでもいいのです。

通信制の高校では、夢の授業を実施してきました。夢という将来の職業に関わるものという意識が高校生では強いのですが、小さなことでもたくさん「やりたいこと」を書き出していくと、「推しのアイドルを見つけて応援する」などとやれそうなこと

が見つかります。最初は自分がやれることを書いていきますが、段々と家族や友だちのこと、そして地域のことなど、対象が広がっていきます。国際調査では、日本の高校生などの若い世代は、世界的にも自分に自信が持てないといった否定的な捉え方が多いという特徴がありますが、小さなことでも自分ができそうなことを見つけて、それを自覚し、整理して、実現のための計画を立て、必要なら修正をしていくという経験を重ねることで、少しずつ、自信や人生への見通しが持てるようになります。

——夢の授業も面白そうですが、「夢検」でもワークショップで他の人と共有する点がユニークですね。

「夢検」については、単に知識などを問う通常の検定とは異なって、ワークショップなどを実施する予定です。例えば、自分がやりたいと思っていることを、小さなことでもいいので、できるだけたくさん書き出していきます。それを参加者でシェアします。これまでの検定は、就職のための知識や縦割り型で、その分野に特化した内容を理解しているかをチェックするものですが、この「夢検」は、毎日を楽しんだり、人

生を前向きにするために、分野を超えた、「横串」型の「ノウハウ習得」型検定という点に特徴があります。個人向けでは、初級の3級から2級、1級などを予定していますが、級ごとにレベルが上がっていくというよりは、3級はすべての人に受検資格があり、例えば1級は「夢活」などの指導まのできることをイメージしています。特に3級は90分のワークショップに筆記試験をプラスしたもので、例えば、1人について30の夢を書き出してもらおうと、途中で思いつかなくなったりしますが、その時に、どのように夢（やりたいこと）を広げていくか、その実現のために何が必要かを参加者で考えていくというスタイルです。このほか法人向けの認定制度（夢を大切にしている会社）を予定しています。

オンラインイベントなども予定

——今後の活動の予定はどうなっていますか。

今後は、全国の複数の箇所設立イベントを実施したり、活動を継続していくための資金をクラウドファンディングで集めていく予定です。これまでも、8月に「小中高

生のための大学院・Coda school」を設立したPSC」という団体とタイアップイベントを実施しました。これは、小・中・高校生が自ら研究したいテーマを設定して、それを客観的に分析・研究し、得られた情報をまとめて文章やポスターにまとめ、他の人が納得できるように発表するという取り組みです。実際に京都市の同志社大学大学院に行つて大学教授の研究を見学したりしました。また、「夏のインターンシップ生」を募集して、北海道、関西、九州の各エリアでインターンシップについての相談会をオンライン（一部の研修は対面形式）で実施しました。

——夢検定協会では、夢を実現する活動「夢活」の重要性もアピールされていますね。夢は個人的なものであってもいいのですが、夢授業などでも、友達の夢を知ることが、話し合いがとも前向きになっていきます。基本的に夢を考えている時は「楽しい」時ですから、それを仲間と共有することで、生徒の表情も明るくなります。「検定」を実施するのは、自分や仲間の夢について知ったり、それを実現するための方法を考えたり、計画や修正をしたり、人に納得

してもらえる方法を提案したりと、「夢活」につながる基礎的な力が育っていくからです。「就活」や「終活」という言葉はあっても、その中間にあるものがほとんどない状況です。「婚活」ぐらいでしょうか。ですから、私たちは、「夢検（ゆめけん）」「夢活（ゆめかつ）」という言葉の普及を通して、小さくても数多くの夢を見つけたり、その実現のためにどうすればいいかを前向きに考えることは、楽しいことだという意識が世の中に広がっていくことを願っています。

もちろん、私たちは小さなNPOですし、資金もスタッフも限られていますので、学校の先生方には、こうしたNPOがあることを知っていただき、一緒にコラボできることを検討していただききっかけになればと願っています。また、自治体や企業の関係者の方にも、こうしたNPOと共にプロジェクトを進めることで、地域や世の中全体が少しでも活気をおびていくことにつながればと思っていますので、私どものホームページを見ていただいて、興味を持っていただきたいと思います。

NPO法人夢検定協会 || <http://yumeken.tel.or.jp>